

事業実績報告書

事業ID:2019526038

事業名:海ごみ問題の中間支援体制作りと海ごみアップサイクルの試み

団体名:アノミアーナ

1. 海ごみワークショップ及び取組み支援

A. 小浜市・内外海地区

概要	<p>リアス海岸に集落が点在し、漁業や観光業（民宿）が盛んな地域である。近年、少子高齢化による担い手不足が深刻化するのに加え、海ごみの漂着量が凄まじく、漁業・観光業への影響が懸念され始めていた。そこで、海ごみ問題の本質を学び、対策や対処方法を考え実行するための支援を行った。</p>
1	<p>内外海地区区長会、内外海地区地域活性化プロジェクト推進協議会で学習会や映画「マイクロプラスチックストーリー」の上映会を行った。 内外海地区区長会が小浜市への要望書を提出する際に、支援を行った。</p> <div data-bbox="285 1055 710 1346"></div> <div data-bbox="828 1059 1262 1350"></div>
2	<p>最も海ごみ漂着量が多く、外部からの支援が必要な志積集落では、8月にオープンしたオーベルジュ志積で、関係者らと漂着ゴミを「原料化」し、アップサイクル品の小皿をレストランで使用、展示し、スタッフが給仕しながら海ごみについて話せる場を作った。</p> <div data-bbox="272 1608 885 1928"></div> <div data-bbox="960 1585 1246 1962"></div>

- 3 民宿向けに海ごみをテーマにしたエコツアーの企画を支援した。コロナの影響で宿泊客へのサービスを実施することはできなかったが、地元生協の社内研修とALT（英語実習助手）対象にモニタープログラムを実施した。



- 4 内外海小学校6年生対象に出前授業を実施した。



- 5 小浜市では、海ごみ回収に関係する部署が4課あり、それぞれが情報交換なく動いていたため、非効率で海ごみの増加に対処できておらず、市民にとってもわかりにくく、支援を受けづらい体制だった。そこで、調査や視察を元に提言を行った。
その結果、庁内横断的な検討会が立ち上げられて検討を行い、新年度からは新しい枠組みで海ごみ回収・処理を行うことになった。



B. 小浜市・加斗地区

概要	海沿いの地域ではあるが、もともと漁業者や民宿は少なく、メインとなっていた海水浴場が閉鎖されてからは、地区民の海に対する意識が薄れている。近年、釣り客等のゴミの放置も目立ち、地区のまちづくり団体「加斗夢づくり協議会」や公民館、小学校から支援の依頼があった。
1	<p>加斗小学校6年生に2回の出前授業を行い、子ども達が集めた海ごみをアップサイクルし、お魚キーホルダーを作った。</p>  
2	<p>加斗夢づくり協議会でも学習会とビーチクリーンを行い、集めたペットボトルを原料としたオリジナルサングラス（オーシャングラス）を作った。</p>  
3	<p>加斗駅100周年記念行事（4月4日）において、お魚キーホルダーやサングラスがお地区住民に披露目された。</p>

C. 敦賀市

<p>概要</p>	<p>個人で海岸清掃をしていた方々に呼びかけ、ビーチクリーン団体（Team Clean Blue）を設立し、定例のビーチクリーンを行う体制を作った。</p> <p>これまで、拾ったゴミは各自が持ち帰っていたが、敦賀市、および海ごみ回収業者と協議し、集めたゴミの回収方法をシステム化してもらった。</p> <p>オーシャングラス プロジェクトなど、今後も集めたペットボトルやプラスチックを資源化し、活動費を産み出すよう検討している。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
-----------	---

D. 高浜町

<p>概要</p>	<p>ブルーフラッグ認証をアジアで最初に獲得した和田海水浴場を有するが、環境面での取り組みが十分ではないため、依頼があり、支援を行った。</p>
<p>1</p>	<p>ブルーフラッグアカデミーとマリンアクティビティ団体「Sea star」が中心に毎月定例のビーチクリーンを行っていたが、そこに海ごみ学習のワークショップを加え、参加者の意識の向上を図った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>2</p>	<p>オーシャングラス プロジェクトにまちづくり団体「高浜明日研究所」のメンバーも加わるようになり、若手層が海岸美化に関心を持つようになった。来年度からは別の海岸でもビーチクリーンを行うことを検討している。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

E. 福井県立若狭高等学校

<p>概要</p>	<p>海ごみに関する探究活動について、地域や外部とのコーディネートを行った。</p>
<p>1</p>	<p>海洋科学科の生徒が海洋プラの再資源化を探究するにあたり、学外活動の支援を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>2</p>	<p>ニューヨークで製作された映画「Microplastic Madness」の字幕翻訳の機会を提供した。これにより、これまで関わっていなかった普通科の生徒が参加するようになった。また、資料の翻訳を依頼し、外国人に英語で説明する機会を提供した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
<p>3</p>	<p>アップサイクル品の試験販売やトークイベントでも、生徒の協力を要請し、一般市民に海ごみ問題を説明し、交流する機会を提供した。また、海ごみ問題に関心のある大学生との交流も図られた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

4. アップサイクルグッズの企画・開発

A. 漁具、漁網

概要	<p>若狭湾では、漁具や漁網の海ごみが多く、アノミアーナが2020年2月に行った調査では、重量ベースの約50%を占めていた。特に発泡フロートと漁網が厄介者となっているため、これらの再資源化を検討すべく、企業を視察した。</p>
1	<p>株式会社西原資源（広島市）</p> <p>発泡フロートを減容機で圧縮し、ペレットを作る機械を開発中。パートナー企業と共同開発で、一般的な廃発泡では成功していたが、長く海水に浸かっていた発泡フロートでは問題が発生。パートナー企業を変えて研究中である。漁村で使える小型の機械を開発中。</p> <div style="display: flex; flex-wrap: wrap;">     </div>
2	<p>リファインバース株式会社（愛知県一宮市）</p> <p>これまで、アクリル漁網を建材や自動車の内装材にリサイクルしていた。現在、繊維化技術を開発中で、衣類にアップサイクルする予定である。原料となる漁網の調達を望んでおられたが、若狭湾ではアクリル漁網はあまり使われておらず、難しいことがわかった。</p> <div style="display: flex;">    </div>

B. プラスチック

<p>概要</p>	<p>若狭湾では、漁具・漁網の次にプラスチックゴミが多く、調査では、重量ベースの約3分の1を占めていた。これらの再資源化を検討すべく、アップサイクルを行っている企業を視察し、若狭湾の海ごみで商品開発を行った。</p>
<p>1</p>	<p>アクセサリー カエルデザイン with リハス（金沢市）</p> <p>海ごみとは思えない、非常に美しいアクセサリーを作っている会社である。若狭産の海洋プラを原料にアクセサリーを作っていた。当初、オリジナル性を持たせるため、貝がついたものを作ってもらったが、そちらに目がいてしまうことがわかり、海洋プラのみのものにした。</p> <p>小型のアクセサリーを作っても海ごみを減らすことはできないが、身に付けることができ、目を引くので、話題作りには事欠かない。啓発用アイテムとして、非常に優れていることがわかった。</p> <p>また、アクセサリーを作るワークショップを開催したところ、非常に人気で、今後はビーチクリーンと組み合わせたエコツアーとしていきたい。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>
<p>2</p>	<p>インテリア小物 株式会社テクノラボ（横浜市）</p> <p>様々なプラスチックが混在する海洋プラを成型するという特許技術でbuoyというブランドのインテリア小物を作っている会社である。</p> <p>若狭産の海洋プラを原料に皿やコースターを作っていた。また、オリジナル商品として、魚型キーホルダーを2種類作っていた。キーホルダーはビーチクリーン等の記念品として活用している。ある程度量産ができ、かつオリジナリティーも出せるので、地域や団体単位で活用しやすいアイテムになると感じた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div>

3 サングラス 有限会社内田プラスチック（鯖江市）

ペットボトルのリサイクル材からメガネフレームを作っている会社である。海ごみペットボトルでも作っていただけないかと依頼したところ、引き受けてくださった。予想以上に難航し、通常はリサイクルペット80%だが、海ごみペットは海外のものなど混じっているためにうまくいかず、海ごみペット25%、リサイクル材50%、強化剤25%で完成した。オリジナルプリントができることから、ペットボトルを拾って原料化した団体がそれぞれデザインを出し合って、3種類のサングラスを完成させた。製造の際の最低ロットが大きいので工夫が必要だが、マリンスポーツやマリンレジャーの団体のビーチクリーンへのアクションに使えると感じた。

